

調査報告書

NPO 博多まちづくり

福岡市都心部は福岡部と博多部の双子都市として永らく栄えてきたが、福岡部のミニ天神化・九州の商業拠点となる一方で、博多を体現する博多部の空洞化は進んだ。商業の核である博多駅や問屋街やデパートなどの流出と、博多部に四つあった小学校が一つに統合されるほどのファミリー層の流出があった。昭和 35 年の人口は 42,000 人だったが、現在 15,000 人ほどになっている。増えるのは青空駐車場やパーキングタワーばかりである。

13 年度:住宅供給公社との協働の形づくり

1.活動の背景

都心部定住化実践における、住宅供給公社の新しい役割と NPO との協働を望んでいる。

2.活動の経緯と目的

都心部定住化施策の一つとして「土地の共同化」の支援制度があるが、定借を使った長期の事業は、民間開発会社や NPO だけでは地主の信頼を得るには難しいところがある。土地共同化による優良な住宅供給と、地主の安定収入を目指す。

3.活動の内容

NPO の事業パンフレットに「福岡市住宅供給公社との協働」を入れた。

4.活動の成果

パンフレットをつくり、老朽建物などのところに配った。具体的成果はまだない。

5.今後の展開

NPO の体制づくりとリンクしている。専従スタッフ(営業)がいない。市役所や公社から NPO に向できないものか。

6.活動のポイント

とにかく現在の NPO 体制で物件を一つ立ち上げることが重要。

13 年度:福岡市建築局との協働による地主への企画提案

1.活動の背景

福岡市都心部の博多部では人口の流出を止めるため、定住化の各種制度がある。また、博多部まちづくり活動の羅針盤である「博多部まちづくり憲章」があり、その第 1 条は定住化の推進である。

2.活動の経緯と目的

博多部のまちづくり活動は福岡市のリーディング事業としての位置づけがあり、定住化支援制度を使った官民協働のまちづくり実践の時期に来ている。地主から土地有効活用の依頼が建設会社へあり、その対応をNPOを窓口にし、福岡市建築局都心居住博多部・振興室と一緒に事業企画の説明を行った。

3.活動の内容

容積率400%で124坪の敷地にファミリー型マンションを計画した。手法は、定借・分譲・スケルトンコーポラ・定住化助成制度である。併せて、隣接地との共同化も提案した。

4.活動の成果

福岡市役所との開発手法の共有。

5.今後の展開(活動について課題となった点や今後の展開として予定 or 検討している内容)

土地共同化や定借を使った開発に対する、行政の積極的な関わり方の検討。

6.活動のポイント

行政とNPOの協働。不在地主に対するアプローチ。

13年度:団地内公開空地の公園づくりワークショップ

1.活動の背景

製紙工場跡地にできた団地の公開空地である公園づくりについて、すでに入居している団地住民への周知と意見収集のタイミングがきた。その作業の依頼が開発者からNPO博多まちづくりにあった。

2.活動の経緯と目的

福岡市博多区美野島地区では、りぼんシティオ那珂川の住宅市街地整備総合支援事業が終盤を迎えた。団地内の公開空地である公園づくりにあたって、すでに入居している居住者を対象にしてその周知と意見収集を行った。

3.活動の内容

団地住民へ公園づくりワークショップの案内を出し、広く参加を求めた。しかし反応はほとんどなかった。アンケートにポストイットをつけ、それを回収し発表するという在宅ワークショップとした。発表会には、団地住民の方が10人足らずではあったが参加された。こちらでグルーピングし、全体をまとめたものを団地内に張りだし、団地住民へ広報した。

4.活動の成果

在宅ワークショップという形ではあったが、団地内コミュニティづくりの第一歩となった。開発者側では、団地コミュニティの実態とその必要性が再認識された。

5.今後の展開

団地内コミュニティづくりと地元コミュニティとの関係づくり。

6.活動のポイント

開発者(民間企業)とNPOの協働。

14年度:美野島地区まちづくりサポート

1.活動の背景

福岡市博多区美野島地区南部では工場地帯が大規模な団地になり、那珂川ふるさとの川モデル事業やりぼんシティオ那珂川の住宅市街地整備総合支援事業が終盤を迎えた。現時点での評価と地域からの意見収集及び今後の展開を探ることが必要になった。

2.活動の経緯と目的

都市基盤整備公団や福岡市建築局と連携しながらNPO博多まちづくりが美野島地区のまちづくりサポートを行った。大型集合住宅が整備され居住人口が増え、美野島小学校が児童減少校から増加校へと転じた。このように地域が生産拠点から居住拠点へと変貌する時、地域コミュニティの核となる施設を整備し、快適で安全に生活できるまちづくりを実現する。

3.活動の内容

美野島地区自治会を中心に、地域関係企業にも声をかけ、地域と企業と行政が協働するまちづくりを目指した。

4.活動の成果

地域住民と地域企業を構成員とする「美野島校区まちづくり協議会」が結成され、福岡市役所の「出前講座」を一緒に受け、団地入居者である団地住民との「新旧住民交流イベント」を開催した。これまで200人足らずの夏祭りが、一挙に3,000人を超える参加者があり、当初は消極的であった団地の新住民の方々もイベント当日は多くの人々が団地から降りてきてみんなと一緒に作業した。旧住民も、これまでの夏祭りの形と場所を変えることに大変な苦勞をされたが、その苦勞が報われた。

5.今後の展開

地元では、今後も交流イベントを継続していくことになっている。イベントが目的化しないよう、少しずつでも地域を継承し発展させる「まちづくり」に進めていきたい。これからもNPO博多まちづくりは、美野島地区と協働し切磋琢磨していきたい。

6.活動のポイント

博多部の地域主体まちづくりから生まれたNPO博多まちづくりであるが、その体験やノウハウや事務局を形作っているネットワークが他の地域のまちづくり活動に活かされている。行政各機関

へ一層の協働をお期待したい。



団地前の河畔公園で行われた新旧住民交流イベント

14 年度：福岡市都心部居住者へのアンケート調査

1.活動の背景

福岡市建築局住環境整備部の都心居住・博多部振興室では、都心居住・博多部振興プランにのっとり事業推進をしているところであるが、その評価や都心部住民などからの意見収集を行い、今後の事業展開の参考にすべくアンケート調査を行った。

2.活動の経緯と目的

博多部の地域主体のまちづくり活動に福岡市が呼応し、都心居住・博多部振興プランを福岡市と博多部が1年間かけて一緒に検討した。そして平成10年、福岡市にて政策決定された。この中で、5年ごとにまちづくりの評価検証を行うことがうたわれている。

3.活動の内容

アンケートの集計をNPO博多まちづくりが行った。その結果を博多部四地区のまちづくり協議会に福岡市が報告している。

14 年度:まちづくり副読本制作

1.活動の背景

「まちづくりは人づくり」と言われるが、小学校でも、総合学習や地学連携の中で地域教育力や学校の独自性などの重要性が認識され始めた。

2.活動の経緯と目的

福岡市都市整備局都市計画課では上記の一助として「まちづくり副読本」の制作をする事になり、NPO 博多まちづくりにその依頼があった。目的は、子供のまちづくりに対する素地づくりである。

3.活動の内容(活動の内容を具体的に紹介し、活動の特徴となっている点をあげる)

都市計画課と小学校の先生(教育委員会)とNPO 博多まちづくりでの協働作業で、原案づくり～検討会～調整などを繰り返し行った。ほぼ完成した副読本を使って、博多小学校の授業でケーススタディをし、再度調整を行った。

4.活動の成果

当副読本は小学生低学年(3～4年)を対象にしている。平成15年度に印刷され小学校に配られる予定で、その活用や成果はこれからである。

5.今後の展開

先生用の解説書が必要。高学年用の副読本が必要。小学校への専門家派遣システムが必要。小学校間での切磋琢磨と情報共有ができる、まちづくりコンテストのような発表の場が必要。副読本自体を、定期的に検証・評価・見直しをすることも必要。

6.活動のポイント

NPO 博多まちづくり事務局スタッフの、まちづくり実践での体験と得意分野がうまくかみ合った。主なスタッフは、アーティストや広告代理店やデベロッパーなどの本業とまちづくりの実践者である。事務局内では激しい議論もあった。福岡市の厳しい予算配分があるとおもうが、一層の充実が図られることを望む。

14 年度:社会実験

1.活動の背景

かつて博多の町は道路を挟んだ両側町で構成されていたが、昭和40年代に町名町界の改正があった。また、交通管理者や道路管理者に集中する権限と責任は、結果として地域の人々を道から遠ざけている。道は地域コミュニティのインフラとしての役割を果たせず、人々の営みは表出せず、単なる町の境界線になった。車道は通過車ばかりで、歩道上の駐輪や歩行者と自転車

の交錯などの問題も出てきた。街並みも、青空駐車場のフェンスや、車庫のシャッターなどが多くを占めている。

2.活動の経緯と目的

国土交通省の「社会実験」に応募し採用された。14年度は実験実施の案づくりや地域内合意づくりを行った。福岡都心部(博多部)の住商空洞化をくい止める一つの方法として、道路空間にまちづくりの視点を当て、人が住みたくなり商業が張り付くような住環境と商環境づくりを目指している。

3.活動の内容

博多部は四つの自治区に分かれているが、同じ歴史・伝統・文化を持っている。この四地区の中央を結ぶ既存道路を「博多回廊」と名付け、安心・安全・賑わい・便利・バリアフリー・コミュニティなどが表出する事を検討した。併せて公共交通機関とレンタサイクルなどの細やかな連携を考えた。要は、公共という道路をもう一度考え直すということ。

4.活動の成果

博多部四地区・県警本部・福岡市・国土交通省・応援団が一堂に会し、博多部のまちづくりを考えた。シンポジウム・ワークショップ・検討委員会・ワーキング部会などを開催した。福博双子都市の福岡都心部再構築まで視野が広がった。

5.今後の展開

15年度の実験実施を目指している。地域自治力・行政の協働まちづくりのパートナーシップが試される。トランジットモールなどの検討も視野に入れる。

6.活動のポイント

地域自治力の低下と道路行政の転換に於ける過渡期に NPO の役割は大きなものがあると思うが、その体力と能力を高めながら行わなければならない。